

2024年 能登半島地震 緊急子ども支援

2024年1月1日に最大震度7を観測した能登半島地震。その被災状況を受け、セーブ・ザ・チルドレンは、石川県内で被災した子どもたちやその家族、子ども関連施設への緊急支援を行っています。



2024年1月の主な活動

医療関係チームや連携団体とともに、発災直後から緊急支援活動を展開しました。

1月1日
地震発生

子どものための心理的応急処置(PFA)発信

- 3日 ● 出動準備
- 4日 ● 石川県庁 支援者向け情報会議に出席／七尾市避難所 緊急子ども用キット配布
- 5日 ● 能登町・珠洲市 避難所調査
- 6日 ● 七尾市避難所 緊急子ども用キット配布
- 7日 ● 七尾市避難所 こどもひろば実施、緊急子ども用キットと衣類、衛生用品などの配布
- 8日 ● 金沢市1.5次避難所 乳幼児とキッズスペース開設サポート、緊急子ども用キット配布
- 12日 ● 能登町避難所 緊急子ども用キット、ぬいぐるみ、毛布など配布
- 13日 ● 珠洲市・能登町避難所 子ども服、文房具、ボードゲームなど配布
- 14日 ● 七尾市避難所 こどもひろば実施／金沢市1.5次避難所 緊急子ども用キット配布
穴水町避難所 緊急子ども用キット、衛生用品、ぬいぐるみなどの配布
- 17日 ● 能登町 居場所支援している団体におもちゃや衛生用品など物品支援
能登町児童館 衛生用品配布／能登町避難所 緊急子ども用キット、衛生用品配布
珠洲市避難所 おもちゃ配布
- 18日 ● 穴水町避難所 こどもひろば 2ヶ所で実施
- 26日 ● 七尾市 学童保育支援員向け子どものためのPFA講座の実施
幼保園・学童保育に物品や飲料水などを提供

2月以降も能登半島地震緊急・復興支援として活動を継続中

セーブ・ザ・チルドレンは1月4日から被災地域に入り、子どもたちに必要な支援を調査。1月末までに石川県七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、金沢市を回り、緊急子ども用キットや衛生用品、おもちゃなどの物資配布やこどもひろばの実施、子どものための心理的応急処置(PFA)の講座などを行ってきました。1月下旬には「能登半島地震緊急・復興支援チーム」を立ち上げ、現地のニーズを確認しながら、子どもの権利を守る視点から支援計画を策定して活動を続けています。



PFA講座



出動準備



七尾市避難所



能登町避難所



穴水町避難所

おもちゃや衛生用品が詰まった
「緊急子ども用キット」などを配布

緊急子ども用キットは、避難所などの生活でも子どもが日常に近い状況で過ごせるよう、感染症に配慮したあそび道具や、水なしで使えるシャンプーなどの衛生用品、防犯用ホイッスル、子どもや保護者向けの情報提供チラシをセットにしてナップサックに詰めたキットです。災害が起こった時にいち早く子どもたちに配布できるよう、セーブ・ザ・チルドレンの東京、大阪事務所の他、九州地方の連携団体にも平時から保管しています。

能登半島地震では、被災地域に入ってすぐにその必要性が高いことが分かり、各所で保管しているキットを石川県に送り、避難所で生活している子どもたちへ届けることができました。

避難所などで子どもや子育て世帯が
必要な緊急物資を支援

セーブ・ザ・チルドレンは七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、金沢市内の避難所などを回り、緊急子ども用キットに加え、子どもや子育て世帯のニーズを聞き取り、必要な物資を届けました。

ある小学生は「頭を洗いたいですが、断水が続いて難しいです」と言い、水なしで使えるシャンプーを見て「これほしかった！使いたい」と、うれしそうな様子でした。

また、自宅に戻れず、着の身着のまま避難してきた子どもからは「自分のサイズの服がほしい」、「みんなで遊べるゲームや文房具がほしい」という声もありました。翌日、子ども用の肌着や衣服、靴下、文房具類を持っていくと、子どもたちはサイズに合った服をそれぞれ自分たちで選び喜んでいました。

文房具も、「わー、うれしい」と遊んでいた手を止めて集まってきて、子どもたち同士で分け合ったり、自宅避難をしているきょうだいの分も「お兄ちゃんにはこれ！」と選んで持って帰っていました。

大人が把握しきれていない子ども特有のニーズを子どもたち自身から直接聞くことで、必要な支援につなげることができました。



保護者の声

「避難所ではずっとゲームをしているので、(折り紙やルービックキューブなど)このようなあそび道具は助かります」

緊急時に子どもたちが
安心・安全に過ごすことができる空間
「こどもひろば」を実施

こどもひろばは、災害などの緊急時に、避難先などで子どもたちが自分の思うままに遊んだり、友だちと過ごしたりする中で、自分らしさを取り戻せる場です。避難生活の中でさまざまな選択肢が限られてしまう子どもたちにとっては、「何をして遊ぶか」を主体的に決めることができたり、自分を受け入れてくれる相手がいることで、日常を取り戻す支援になります。同時に、こころの安定につながり、子どもが難しい状況や問題を自分の力で対処していくサポートへもつながります。

また、子どもが安心・安全な居場所にいることで、親や養育者は自分の時間を持つことができ、災害後の生活再建や家の片付けに集中することができます。

七尾市、穴水町で遊び場支援の団体と連携して
こどもひろばを実施

1月6日、七尾市内の避難所でスタッフが子どもたちに声をかけると、「(こどもひろばがあると)すごくうれしい」という声がありました。セーブ・ザ・チルドレンは、避難所の運営担当者にスペースを確保してもらい、開催を決定。保護者同士のつながりで在宅避難している子どもたちにも案内をもらい、1月7日にこどもひろばを実施しました。子どもたちは、案内用のポスターを作り、どんなことをして遊びたいかをスタッフと一緒に考えながら準備を進めました。遊びの時間では、段ボールを使った工作や、ふくらませたビニール袋をボールに見立てたバレーなど、思い思いの遊びを楽しんでいました。

1月18日には地域の保健師から、在宅避難や車中泊をしている世帯が少しでも運動したり遊べる機会を持てるようにとの依頼を受け、穴水町の避難所2ヶ所でこどもひろばを実施しました。保護者もこどもひろばに参加したことで、災害後に会う機会がなかった保護者同士が無事を確認し、話し込んでいる様子もありました。

セーブ・ザ・チルドレンは引き続き、子どもたちが安心・安全な環境の中で、自分のやりたいことや感情を表現できる居場所を提供していきます。

※ こどもひろばは、災害時の遊び場支援などを行っている一般社団法人プレーワークズと連携して実施されました。



子どもの声

「思いっきり体を動かせてうれしかった」
「今まで避難所でみんなで遊ぶことがなかったので楽しかった」「毎日遊びたい」

保護者の声

「子どももストレスがたまっていたようだったので、走り回ったりできて良かった」
「子どももずっと家にいるのも飽きていたようで、ここで友だちと遊べたのが良かった」

誰もができる、
緊急下の子どもたちのケア
「子どものための心理的
応急処置」の情報提供・講座

1月26日、七尾市の放課後児童クラブ(学童保育)支援員を対象に「子どものための心理的応急処置(子どものためのPFA)」※の講座を実施しました。

地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちは、普段とは異なる反応や行動を示すことがあります。反応は子どもによってさまざまですが、共通して言えるのは信頼できる大人がそばにいることが大切です。「子どものためのPFA」は、そのような子どもたちのことを傷つけずに、子どもたちが少しずつ、自分たちのペースで落ち着きを戻せるように対応するための方法で、心理や精神保健の専門家でなくても、誰もが使える、子どもたちのための応急手当です。

「子どものためのPFA」講座を
七尾市学童保育支援員向けに実施

七尾市子育て支援課から学童保育の再開に際し、子どもと接する支援員を対象に、子どもたちのケアを学ぶ機会を提供してほしいとの要請があり、日本赤十字社で「こころのケアコーディネーター」を務める臨床心理士・公認心理士に講師をお願いしました。

講座の中で、講師は、「子どものためのPFA」の行動原則である準備・見る・聴く・つなぐに沿って、「こういうことが起こるといふ知識を事前にインプットしておくことで、その場で気付くことができます」「地域にいる皆さんにこういう目を持っていただくことが、子どもの支えになります」と説明しました。その他、支援者自身のセルフケアとして呼吸法や筋肉弛緩法などの紹介もありました。

参加者からは、子どもへの対応に関する質問も相次ぎ、「大人がすべてやってあげるのではなく、子どもが自分の力で問題を解決することをサポートしたい」、「他の支援員にも学んだことを伝えたい」といった声が聞かれました。

*「子どものためのPFA」は、世界保健機関(WHO)などが、支援者が共通して身につけておくべき心構えと対応をまとめたPFA(Psychological First Aid)を、子どもとその保護者・養育者に対して実施するうえで、子どもの発達段階の特性や、年齢にあった必要など、子どもに特化して、セーブ・ザ・チルドレンが作成したものです。



子どものための
PFA
詳しくはこちら

災害などの緊急時、あなたは
どのように子どもに声をかけますか？



Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL 03-6859-0070 www.savechildren.or.jp

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う民間・非営利の国際NGOです。約100年にわたり、「子どもの権利」が実現された世界を目指して活動しています。

2024年2月